

●リュウグウノツカイ漂着●

その昔、浦島太郎が行ったという竜宮城——日本のはるか南の海底に竜宮城があったとか。さて、最近リュウグウノツカイが日本海に例年になく大量に漂着している。おとぎ話では竜宮の使いは亀だが、ここでいうリュウグウノツカイとはインド洋から太平洋にかけて、水深200メートル以深に生息するという珍しい深海魚のことだ。体は細長く、大きいものでは体長10メートルほどもある。2009年11月から今年にかけての4か月に少なくとも16匹が確認されている。

海岸に打ち上げられた場所は、富山湾で4匹、福井・京都・長崎でそれぞれ3匹、兵庫で2匹、山口で1匹であった。暖流に乗ってきたはずなのに、なぜ日本海側ばかりで見つかったのか、なぜこの冬に多く漂着したのか、専門家も首をかしげている。

原因として、この冬の日本海の水温の高さがあげられている。舞鶴海洋气象台（京都府）によると、日本海を日本列島に沿って北上する対馬海流の勢力が、2009年の10～12月にかけて平年よりも強く、海面温度も1～2度高かった。

リュウグウノツカイは、遊泳力がなく海を漂うように生活しているのではないかとわれている。暖流に乗って比較的温かった日本海に来たものの、水温の低下に耐えられずに弱って海岸に打ち上げられたのではないかとみる専門家もいる。

別の専門家は、今年見つかったリュウグウノツカイがいずれも体長2～4mと比較的小さいことから、インド洋など南方の繁殖地で大量繁殖したか、偶然多くのリュウグウノツカイが対馬海流に乗ったことで、若いリュウグウノツカイが流れてきているのではないかと予想している。

岸に打ち上げられるとまもなく死ぬ場合が多く、生きた姿を展示した水族館はほとんどないという。標本を展示しているのは、北海道水産科学館（函館市）、東海大学海洋科学博物館（静岡市）、九十九島水族館（佐世保市）など、全国でもわずかである。リュウグウノツカイの漂着は、古文書にも記録されているという。1800～1831年に、島根や高知などで5件の記録がある。「大漁の吉兆」「地震の前触れ」など、昔から各地で言い伝えがある。

来年も同じように多く見つかるようだと海的环境変化を疑わなくてはならないようだ。いずれ



にしても、おとぎ話の竜宮城からの本物の使いではなさそうだ。

「さて何の使いか？」謎は深まるばかりである。

* リュウグウノツカイ漂着の集計は2010年4月1日現在。朝日新聞参照。

●キウイフルーツはどこから？●

「毎日くだもの200g運動」というのを知っているだろうか。1日200gを目安に、いろいろなビタミン、ミネラル、食物繊維を豊富に含む果物を食べることで、がんをはじめ生活習慣病などに対して、高い予防効果があることが明らかになっている。

果物の中でもキウイフルーツは栄養素がトップクラスである。キウイフルーツは1個約100gだから、2個で1日の目安量を満たすことができる。身近な果物の中でも優れた栄養を含んでいる。

キウイフルーツは、中国の長江（揚子江）沿岸が原産地のマタタビ科のつる性植物である。1904年にニュージーランドに種子が持ち込まれ、現在のような大きな実をつけるように改良された。1950年ごろ果物の形が、ニュージーランドの国鳥「キウイバード」に似ていることから「キウイフルーツ」と名づけられ、今では世界中に輸出されている。キウイフルーツはニュージーランドを象徴する作物で、野菜・果物など園芸作物の輸出額の46%を占めるといふ。ニュージーランドの北島中部にある港町タウランガとこの周辺一帯は、この国のキウイフルーツ生産の約80%を占める大産地である。

日本にもたくさんのキウイフルーツが出回っているが、日本国内産と輸入品がある。輸入品の90%以上がニュージーランド産である。ニュージーランドは南半球にあるため日本と季節が逆である。このため、日本産とニュージーランド産が1年を通じて出荷され、1年じゅう食べることができる。

キウイフルーツのいちばんの輸出先は、輸出量の17%を占める日本である。有名なタレントを使ってCMを流すなど、日本市場に力を入れている。日本にキウイフルーツが本格的に登場したのは、1970年代であるから、比較的最近のことである。ヨーロッパでは、キウイの酸っぱさが好まれるが、日本では甘さが好まれるため、日本向けに甘さを強くした品種を開発しているという。このためここ10年、日本の消費量は急増している。

果物は嗜好品であるから、景気がよくないということもあって最近は売れゆきがよくないが、キウイフルーツだけは伸びている。

ニュージーランドは、面積約27万km²で日本の約4分の3、人口は約430万人で日本の約3%という比較的小さい国なので、農家はよほど力を入れて売らないと厳しいという。

しかし、最近の健康志向を考えれば、栄養たっぷりのキウイフルーツは、世界でまだ伸びるはずだと考えて、ニュージーランドの農家はがんばっている。

